



「十勝管内事業概要」ってなあに？

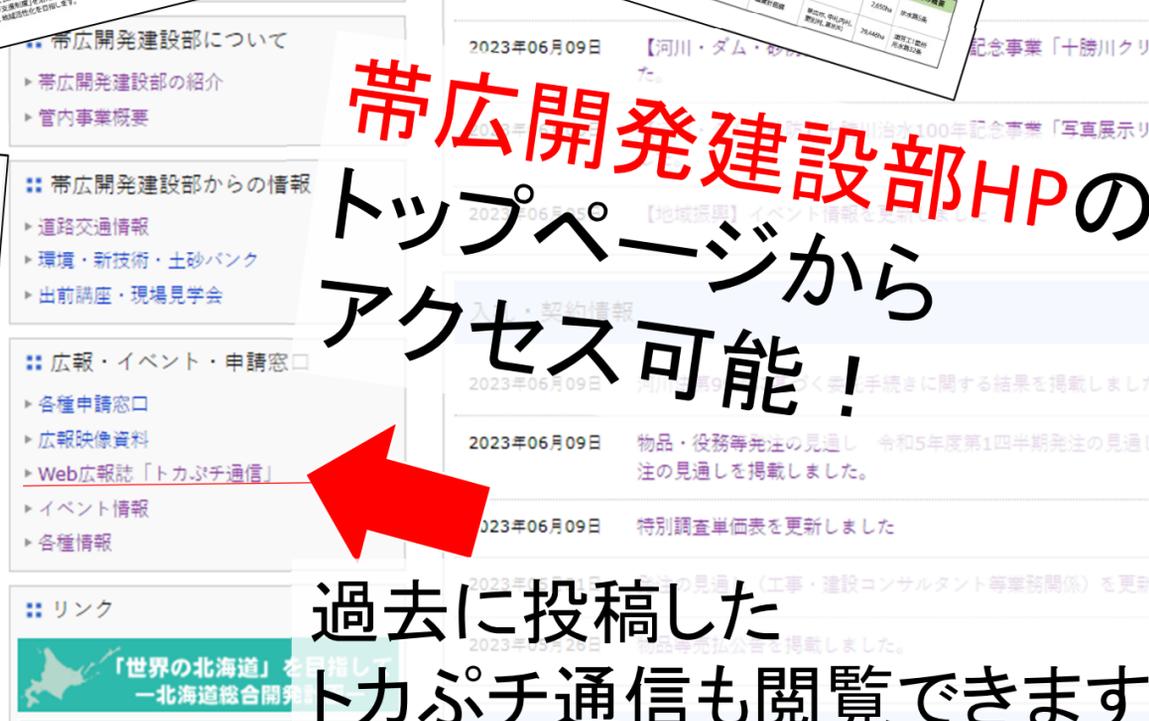


Q. 帯広開発建設部って**どんな仕事**をしているところなの？

A. 十勝管内事業概要を見れば、**当部の各事業**の詳しい内容が分かります！
河川部門・道路部門・農業部門



他にも、十勝管内の概況として十勝の**気候**や**面積**なども掲載！
 過去に**当部でツイートした内容**と併せて見るのも面白いですよ♪



過去に投稿した**トカプチ通信**も閲覧できます
 帯広開発建設部Twitterも併せてご覧ください！↓



日々、十勝の魅力と当部の取り組みを発信中！

クリック！

北海道帯広工業高等学校と

帯広開発建設部の河川及び道路部門の5事務所が

パートナーシップ協定による連携学習を実施中！

協定を締結して2年目の今年、
令和5年6月30日時点までの活動状況をご紹介します。

2023年4月26日

帯広工業高校で行われた「外部との連携による探究学習の開始式」に帯広道路事務所が参加しました。
～3年生課題研究～

- ◆土木を理解し、技術を身につける
- ◆土木の課題を発見し、解決する力を養う
- ◆土木の発展や社会貢献に取り組む態度を養うためなどを目的として、**連携学習**をスタートしました。

関係機関から
ご挨拶



北王
コンサルタント 様 徳井建設
株式会社 様 高堂建設
株式会社 様 北海道開発局
帯広開発建設部

▲連携する関係機関

2023年6月15日

帯広開発建設部を見学～2年生が職場体験～

- ◆実際の仕事を行う事務室や事務所を訪れ、
日常の仕事や打合せを見学
- ◆各課の仕事内容や防災対策車の説明
- ◆仕事の現場である十勝大橋を見学

帯広開発建設部の仕事をより深く勉強していただきました。



▲全体風景

▼防災対策車の説明の様子



▼日常の業務を見学する様子



各部門の説明▼



パートナーシップ
協定の詳細は
こちらをクリック！！

この先も様々な連携学習を実施していきます。
この活動が少しでも帯広工業高校の
皆さんのお役に立てば幸いです。



◀十勝大橋見学



国営土地改良事業 R5年度 新規着工2地区をご紹介します！

笹川地区

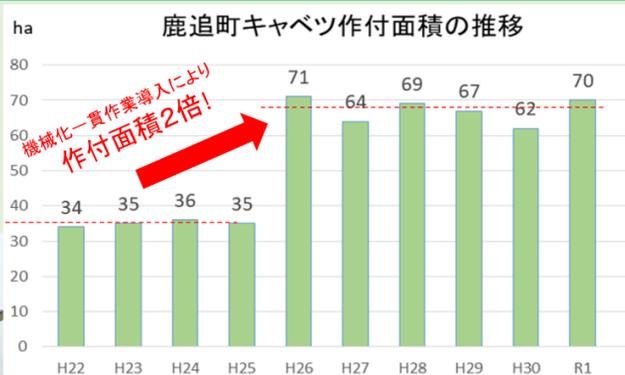
[農業事業の詳細はこちら](#)

地域の概況

本地区は、北海道十勝管内の鹿追町に位置する畑作及び酪農地帯です。地域では、小麦、ばれいしょ、てんさい、小豆の畑作物に高収益作物であるキャベツを組み合わせた畑作経営、飼料作物（牧草、青刈りとうもろこし）を栽培し乳牛を飼育する酪農経営を展開しています。

特に、キャベツは、加工業務用野菜等としての需要が高く、JA鹿追町では機械化一貫作業体系の構築、ICTを活用した全自動キャベツ収穫機の開発等による省力化を通じて生産拡大を進めています。

▶資料：
北海道農林水産
統計年報



◀現在開発中の
全自動キャベツ収穫機

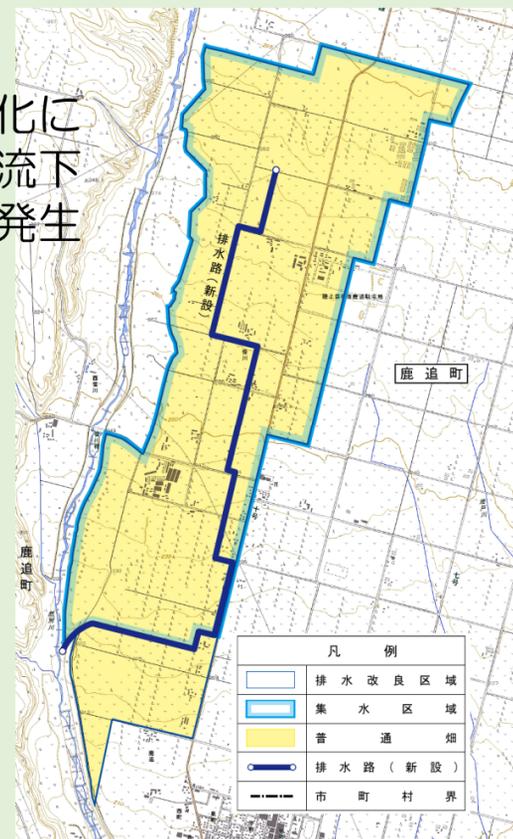
事業構想

【目的】

本事業で基幹的排水路の新設整備を行うことで、農地の湛水被害の解消を図り、農業生産性の向上と農業経営の安定化を図る狙いです。

【現状】

降雨量・降雨形態の変化により流出量が増加し、流下能力不足・湛水被害が発生しています。



【基幹的排水路の整備による効果】

湛水被害の解消

- 農業経営の安定化
- 高度な地域生産体制の整備
- 安全・高品質農産物の安定生産

地区の現状と課題

本地区では基幹的排水路が整備されておらず、現況排水系統は小明渠等による排水網で構成されていますが、近年の降雨形態の変化により流出量が増加していることから、直近10か年で3回の湛水が発生しています。湛水発生時には、「ほ場の溝切り」「ポンプ排水」等の対応が行われ、多大な費用と労力を要しています。

地区内では湛水被害が頻発する被災リスクの高い状況であることから、高収益作物であるキャベツの作付拡大が進められない状況にあります。



ほ場の湛水状況(ばれいしょ)
平成28年8月31日撮影



溝切り、ポンプ排水状況
平成28年8月31日撮影



事業計画概要

受益面積	：	611ha (畑)
関係市町村	：	鹿追町
主要工事	：	排水路1条 6.3km (新設)
主要作物	：	小麦、小豆、ばれいしょ、てんさい、キャベツ、飼料作物

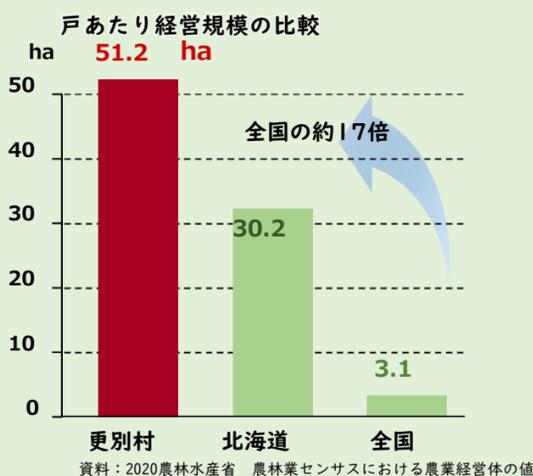
新 更 別 地 区

地域の概況

本地区は、北海道十勝管内の更別村に位置する畑作地帯です。地域では、小麦、ばれいしょ、てんさい、豆類（いんげん・小豆・大豆）にスイートコーンを組み合わせた畑作経営と飼料作物（牧草・青刈りとうもろこし）を栽培し乳牛を飼育（生乳生産）する酪農経営を展開しています。なかでも、いんげんの作付面積は1,280haとなっており全国1位（全国シェア17%）の産地となっています。全国でもトップクラスの大規模経営を展開しており、戸当たり経営面積は全国平均を大きく上回る51haです。

近年は、さらなる経営規模の拡大に対応するため、スマート農業の実現を目指しており、AI、IoT等の先端技術を活用したスマート農業の社会実装の加速化を目指す「スマート農業実証プロジェクト（農林水産省、農研機構）」など※に選定されています。

※更別村は、「近未来技術等社会実装事業（内閣府：全国14事業）」や「スマート定住条件強化型モデル地区（農山漁村振興交付金：全国13地区）」に選定されています。さらに、大学や企業にも積極的に実証フィールドを提供しています。



▲ドローンによる農薬散布試験



▲無人トラクターの走行試験

地区の現状と課題

本地区では、降雨形態等の変化により流出量が増加し、直近10力年で2か年3回の湛水が発生しており、豆類、ばれいしょなどの湛水被害のほか、被災リスクからスイートコーンなどの高収益作物の作付拡大が出来ないなどの間接的な被害により、収益性の高い営農展開に支障を来しており、早急な対策が求められています。



◀降雨後1週間が過ぎても湛水したままのいんげん畑 (平成28年9月7日撮影)



事業構想

【目的】

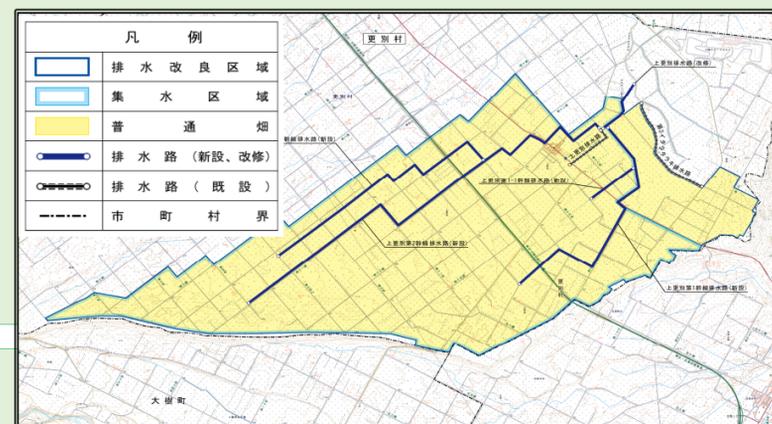
本地区の排水施設は、国営札内川第二地区（平成8年度～平成29年度）により整備されましたが、近年の大雨により農作物の湛水被害が生じています。さらに、湛水後も迅速な排水が行われないことから、効率的な農作業が行えない状況にあるため、本事業により、排水路の整備を行うことで農地の湛水被害の解消を図り、農業生産性の向上と農作業の効率化による農業経営の安定を図る狙いです。

【現状】

排水条件の変化、降雨量・降雨形態の変化により、流出量が増加し排水能力不足・湛水被害が発生。

【排水施設の整備による効果】

湛水被害の解消、高収益作物の生産拡大、産地収益力の向上



事業計画概要

受益面積 : 2,050 ha (畑)
関係市町村 : 更別村
主要工事 : 排水路5条 22.9km (改修1条、新設4条)
主要作物 : 小麦、ばれいしょ、てんさい、豆類（いんげん・小豆・大豆）、スイートコーン・飼料作物